

各関係機関団体の長 }
各病虫害防除員 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成25年度病虫害発生予報第8号（11月）について

このことについて、病虫害発生予報第8号を発表したので送付します。

予報第8号

11月における主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

主な病虫害の発生予報概要

作物名	病虫害名	発生量 (現況)	発生量 (11月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
冬春イチゴ	炭疽病 ハダニ類	少 やや少	やや少 やや少	やや少 並
冬春ナス	すすかび病 灰色かび病	やや少 並	やや少 並	やや少 並
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ オオタバコガ コナジラミ類	やや少 やや少 並 並	やや少 並 並 やや多	少 やや多 やや多 やや多

<予想される向こう1か月の天候（平成25年10月26日～11月25日）>

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。
向こう1か月の気温は、平年並か高いでしょう。降水量と日照時間は平年並でしょう。
週別の気温は、1週目は高く、2週目以降は平年並でしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

要素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

（福岡管区気象台 平成25年10月25日発表抜粋）

作物別発生予報

注①：この予報は病害虫防除所の現地調査結果に基づき、情報作成会議を経て作成しています。

注②：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示します。

【野菜：冬春イチゴ】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（-）。

発病株率 0%（過去9カ年平均 0.3%、前年 0.3%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている（+）。

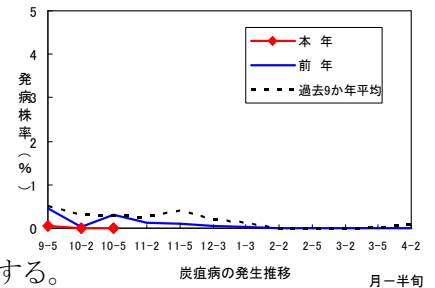
(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株は、残さずに周囲の土ごと掘り取り、ほ場外に持ち出し処分する。

イ ハウス内の排水を図り、多湿にならないようにする。

ウ 無病親株の確保のため、余り苗は使用せず、ビニル被覆期以降に発生する秋期ランナーより採苗する。

エ 農薬の使用及び散布にあたっては、P6の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫においても同様）。



2 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少・前年並

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（-）。

寄生株率 2.4%（過去9カ年平均 5.0%、前年 2.3%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている（+）。

(3) 防除上注意すべき事項

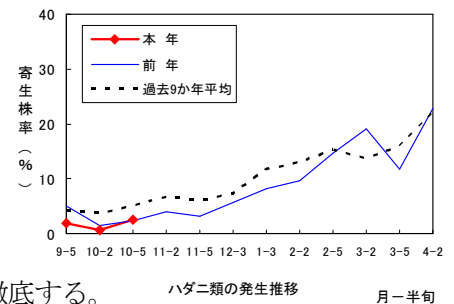
ア 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。

イ 防除は摘葉後に行うと効果的である。

また、摘葉した葉や除去した雑草は、ハウス内に放置せず、ビニル袋に入れ密封し処分する。

ウ ハウス内と周辺ほ場の除草を徹底する。

エ ビニル被覆後に天敵を利用する場合は、天敵類への影響が大きい合成ピレスロイド系、ピラゾール系の薬剤は使用しない。



【野菜：冬春なす】

1 すずかび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（-）。

発病株率 0%（平年 0.38%、前年 0.7%）

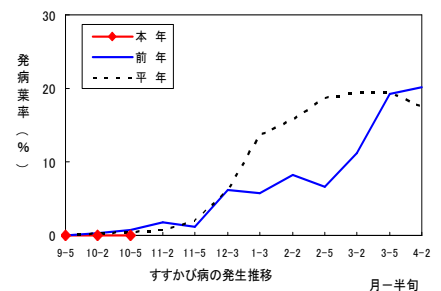
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている（±）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

イ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



2 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病株率 0% (平年 0.03%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(±)。

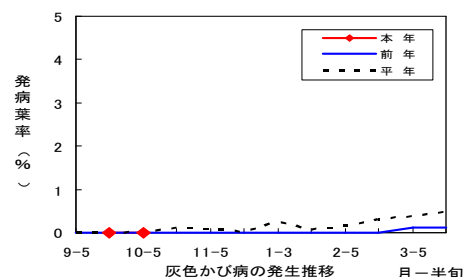
(3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

イ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 散布ムラができないように、丁寧に薬剤を散布する



【野菜：共通】

1 ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年より少

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、ナスでの発生量は平年よりやや少なかった(-)。

ナス寄生率 16.2% (平年 21.1%、前年 29.7%)

ナス発生ほ場率 77.8% (平年 87.9%、前年 100%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(+)

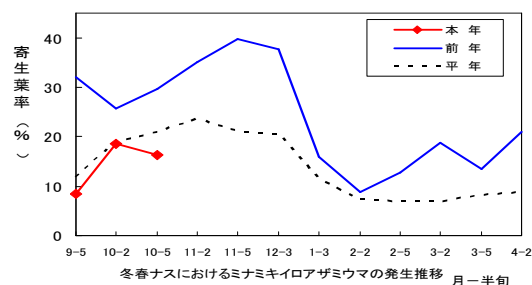
(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉裏への寄生が多いので、散布ムラがないように散布する。また、多発した場合は、約1週間後にもう一度薬剤散布を行う。

イ ほ場内外の除草を徹底し、本種の増殖源を絶つ。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 天敵を利用する場合は、薬剤の選定に留意する。



2 ハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 県下2か所のフェロモントラップにおける10月1～5半旬の合計誘殺虫数は、平年並であった(±)。

筑紫野市 1,161頭 (過去8か年平均 1,267頭、前年 1,401頭)

行橋市 1,234頭 (過去3か年平均 821頭、前年 272頭)

イ 10月5半旬調査の結果、イチゴでの発生量は過去9年平均よりやや少なかった(-)。

寄生株率(本ぽ) 0.9% (平年 1.8%、前年 0.4%)

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(+)

(3) 防除上注意すべき事項

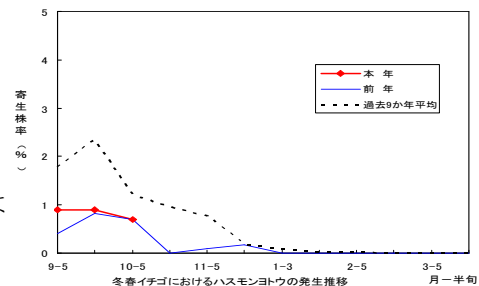
ア 孵化直後から3齢幼虫期までに、薬剤防除を徹底する。

イ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

ウ 卵塊や分散前の若齢幼虫が群生しているかすり状の葉は、見つけしだい除去する。

エ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため、4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

オ 今後の発生状況については、病害虫防除所のホームページを参照する。



3 オオタバコガ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 県下6か所のフェロモントラップにおける10月1～5半旬の平均誘殺虫数の合計は187.7頭で、平年よりやや多かった（平年 141頭、前年 118.6頭）（+）。

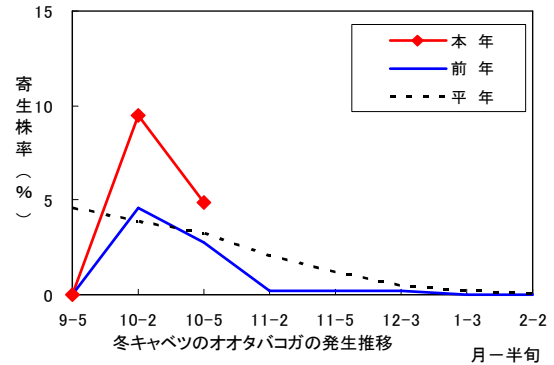
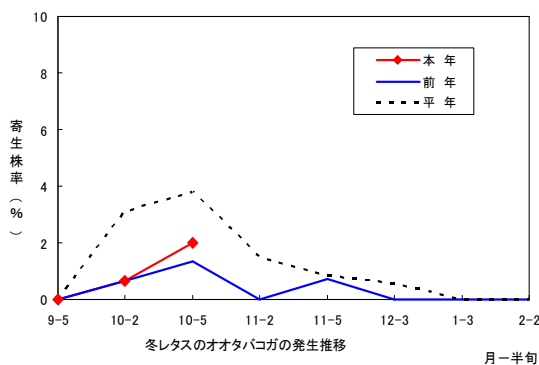
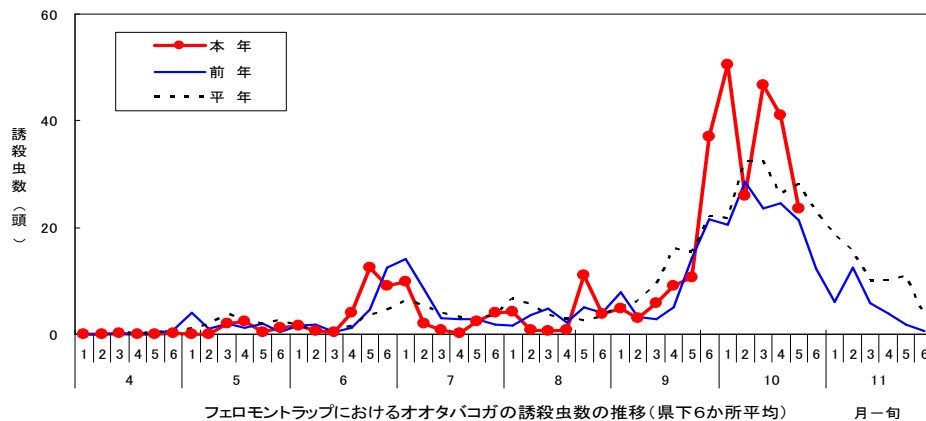
イ 10月5半旬調査の結果、レタスの発生量は少なかったものの、イチゴでは平年並、キャベツではやや多かった（±）。

レタスにおける寄生株率 2.0%（平年 3.8%、前年 1.3%）

イチゴにおける寄生株率 0.9%（過去9カ年平均 1.2%、前年 0.3%）

キャベツにおける寄生株率 4.9%（平年 3.2%、前年 2.8%）

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている（+）。



(3) 防除上注意すべき事項

ア 中齢以降の幼虫は、未熟果や結球部位に食入するため、薬剤がかかりにくいので、早期発見に努め、孵化直後の幼虫を狙って防除を行う。

イ レタスでは、トンネル被覆前に防除を徹底する。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 今後の発生状況については、病害虫防除所のホームページを参照する。

4 コナジラミ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

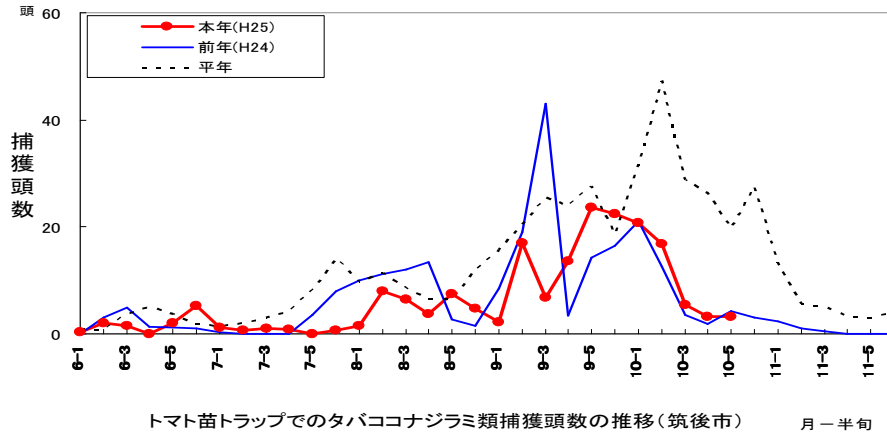
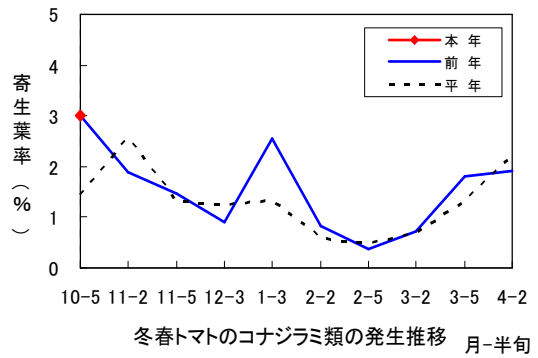
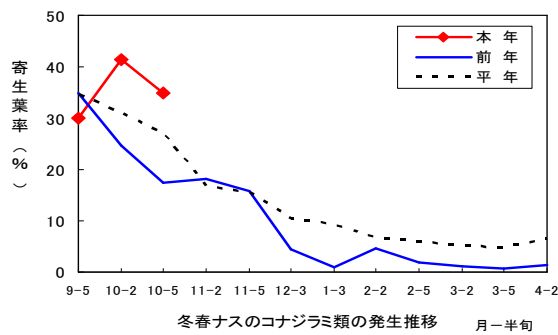
ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった。（+）

ナス寄生率 34.9%（平年 27.0%、前年17.6%）

トマト寄生率 3.0%（平年 1.4%、前年 3.0%）

イ トマト苗トラップにおける10月1～5半旬の合計捕獲頭数は、平年より少なかった。（-）
筑後市 49.3頭（平年 153.3頭、前年 43.2頭）

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている（+）



(3) 防除上注意すべき事項

- ア ほ場内外の雑草の除去を徹底し、害虫の生息と増殖源を絶つ。
- イ 幼虫や蛹が寄生している下位葉は、できる限り除去する。
- ウ 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように散布する。
- エ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため、0.4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。
- オ トマト黄化葉巻病 (TYLCV) の罹病株は、早期に抜き取りは場外へ持ち出す。

【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (11月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春イチゴ うどんこ病	並	並	並	・ビニル被覆後は発生が多くなるので、定期的な予防散布を徹底する。
冬春トマト 葉かび病	並	並	並	・整枝、剪定を行い、通風を良くする。 ・肥料切れを起こすと発生しやすくなるので、適正な肥培管理を行う。
冬キャベツ 黒腐病 菌核病 コナガ	並 並 やや少	並 並 やや少	並 並 並	・予防散布に努める。 ・防除適期は結球開始期である。 株元に十分かかるように、株周囲から散布する。 ・若齢幼虫期に防除する。
冬レタス 灰色かび病 菌核病 腐敗病	並 並 並	並 並 並	並 少 並	・発病株は、抜き取り処分後、直ちに薬剤散布する。 ・灰色かび病との同時防除を行う。 ・凍害を受けると被害が激しくなるので、トンネル被覆が遅れないようにする。

農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では農薬の安全かつ適正使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・有用昆虫・河川等に対する配慮について、ご指導をお願いします。

1 農薬ラベル確認の徹底

(適用作物・使用量や濃度・使用時期・総使用回数・有用生物〈みつばち等への影響〉)

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

2 散布前における情報提供の実施

(散布区域に近接するほ場、住宅地、養蜂等の関係者、他)

3 散布時には近隣作物や住宅地等周辺への飛散防止を徹底

- ・ 風、散布方向、散布時間、散布圧に留意
- ・ 飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用
- ・ 散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意

4 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を3回洗浄

5 防除履歴の正確な記帳

- ・ 薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳

6 空容器の処分

- ・ 空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。
また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>
電子メール byougaichuboujyo@pref.fukuoka.lg.jp